

福島第一でALPS稼働で発生する放射性汚泥の保管場所も満杯に近く 減量のための脱水処理装置はまだ設計中で26年末の運用が目標

福島原発事故炉の溶融燃料の冷却水と、地下水を合わせると1日に100トンもの汚染水が発生する。それを多核種除去システム(ALPS)で処理するが、その過程で「鉄共沈汚泥」「炭酸塩汚泥」、そして「放射性物質を吸着した吸着材」が発生し、今でも2日に1台のHIC容器に入れて保管される。超高濃度汚染(10mSV・h=5時間で1年分の被曝量)のため、厳重に保管する必要がある。原発と同じで、稼働後の後始末を考えれていないシステムである。

いい加減な事故炉処理で進む破綻

汚染水の問題では、地下水流入を阻止するはずの「凍土壁」がほとんど役立たずに、今なお1日に100トンの汚染水が発生させている。保管タンクも小型の簡易型で寿命も短い。そして今度は海洋に投棄しようとしている。

今回の問題は、ALPS装置は除去する放射性汚泥をHIC容器に入れて保管するが、それが既に4000基を超え満杯となったというのである。減量する装置は今年の完成予定が遅れて、まだ設計中である。



事故炉の徹底調査、汚染の閉じこめ

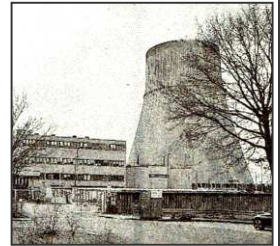
政府と東電は「41～51年までの廃炉完了」を口実に、敷地の整備と称して、汚染水の海洋投棄、汚染土の全国での利用などを目論んでいる。汚染の拡散でなく、地下水の流入の大幅減少、大型で安全な保管タンクと保管庫の建設である。そして事故の教訓を生かす第一のことは、全国の原発の稼働を停止し廃炉とすることである。

汚泥格納の HIC

4月15日にドイツ 全原発停止！ 福島事故から12年

福島原発事故が発生した時に、世界の多くの国が原発をなくすことを目標とした。事故を起こした日本は自民党政権への政権交代もあり、今や原発の再拡大をめざそうとしている。ドイツでは福島事故後にメルケル首相が稼働中であった17基の原発を2022年末までに停止することとした。ドイツでは再生可能エネルギーの開発と補助を強めることで、再生可能エネルギーの割合が高まり、現在は40%台半ば、30年までに80%まで拡大する予定である。

ウクライナ戦争でロシアからの天然ガスの供給が途絶え、困難な状況であるが、政府からは原発の再稼働の動きは出ていない。



最後のEMスラント原発



「大阪IRカジノ構想」認定に抗議！撤回させるまで闘おう！

統一地方選挙で、大阪では府知事・市長、そして府議会、市議会の過半数を維新に奪われてしまった。投票率は低く、維新の争点隠しによって IR・カジノ反対の世論は拡大したのに選挙では敗北となってしまった。それを待ち構えていたかのように、岸田政権は、大阪府と市が提出している「整備計画」を正式に認定した。問題になっている土壌汚染問題や依存症の問題については地方自治体に対応するとの言葉だけでごまかし、用地の賃料問題など重大疑惑を無視して認可した。

問題だらけのカジノは要らない！どこにもいらない！

大阪維新のだまし討ち強行策と岸田内閣の無責任な「認定」を我々は断じて認めない。大阪カジノ計画は、土壌汚染・液状化問題、大阪市の788億円の経済負担だけでなく、地盤沈下問題、地価・賃料における談合疑惑、予想される公費負担の増大、ギャンブル依存症と治安問題など多くの問題が未解決で残されている。

政府が認定したからと言って、私たちは諦めることはでき

ない。引き続き「大阪にはカジノはいらない、全国どこにもカジノはいらない」との闘いを続けていきたい。

今日を出発点に、撤回させるまで頑張ろう！

4月14日の昼には大阪府庁前に150人で、そして夕方には京橋駅前で140人の参加で抗議集会が開催された。集会には、地方選挙を闘った辰巳さん、山川さん、山中さん、野々上さん、そして運動を推進してきた各団体が発言した。発言では、カジノ構想を争点から隠しておきながら、選挙が終わると推進する大阪府知事と市長に抗議し、まともな審議もせず認定した岸田政権に抗議した。

そして今日を出発点にカジノ反対の運動を盛り上げて、認定を撤回させようと全体で意思統一した。

(2023/4/14)



発言する辰巳コタロ-さん

ウクライナ戦争の即時停戦を呼びかける日本市民の宣言に署名を！

ウクライナでは戦争の拡大と戦闘激化によって、戦闘員だけでなく民間人の被害も急増している。またエネルギーや、食糧・飼料の高騰などによって世界の経済は疲弊し、市民の生活は困難となっている。米軍と NATO は武器・弾薬を供与することで、戦争の拡大と長期化を進めている。5月に広島で開かれるG7サミットには欧米諸国の首脳が参加する。その会議に向けて、戦争の停止と平和を呼びかける声明である。ぜひ署名に協力を。<https://chng.it/ZrHvPh8x>

今こそ停戦を「私たちの地域の平和を」Ceasefire Now! No War in Our Region!

-----2023年5月広島に集まる G7指導者におくる日本市民の宣言-----

私たちは日本に生きる平和を望む市民です。

ウクライナ戦争はすでに一年つづいています。この戦争はロシアのウクライナへの侵攻によってはじまりました。ウクライナは国民をあげて抵抗戦を戦ってきましたが、いまや NATO 諸国が供与した兵器が戦場の趨勢を左右するにいたり、戦争は代理戦争の様相を呈しています。数知れぬウクライナの町や村は破壊され、おびたしい数のウクライナ人が死んでいます。同時にロシア軍の兵士もますます多く死んでいるのです。これ以上戦争がつづけばその影響は地球の別の地域にも広がります。ロシアを排除することによって、北極圏の国際権益を調整する機関は機能を停止し、北極の氷は解け、全世界の気候変動の引き金となる可能性がうまれています。世界の人々の生活と運命はますますあやうくなるのです。核兵器使用の恐れも原子力発電所を巡る戦闘の恐れもなお現実です。戦争はただちにやめなければなりません。

朝鮮戦争は、参戦国米国が提案し、交戦支援国ソ連が同意したため、開戦一年と15日後に、正式な停戦会談がはじめられました。ウクライナ戦争では開戦5日目にウクライナ、ロシア二国間の協議がはじめられ、ほぼ一カ月後にウクライナから停戦の条件が提案されると、ロシア軍はキーウ方面から撤退しました。しかし、現実的な解決案を含むこの停戦協議は4月はじめに吹き飛ばされてしまい、戦争は本格化しました。以来残酷な戦争がつづいてきたのです。開戦一年が経過した今こそ、ロシアとウクライナは、朝鮮戦争の前例にしたがって、即時停戦のために協議を再開すべきです。Ceasefire Now! の声はいまや全世界にあふれています。

幸いなことに、この戦争において、穀物輸出と原発については、国連やトルコなどが仲介した一部停戦がすでに実施されています。人道回廊も機能しています。こうした措置は、全面停戦の道筋となりうるのです。中国が停戦を提案したこともよい兆候です。ヨーロッパ諸国でも停戦を願う市民の運動が活発化しています。G7支援国はこれ以上武器を援助するのではなく、「交渉のテーブル」をつくるべきなのです。グローバル・サウスの中立国は中国、インドを中心に交渉仲裁国の役割を演じなければなりません。

ウクライナ戦争をヨーロッパの外に拡大することは断固として防がなければなりません。私たちは東北アジア、東アジアの平和をあくまでも維持することを願います。この地域では、まず日本海(東海)を戦争の海にはしない、米朝戦争をおこさせない、さらに台湾をめぐる米中戦争をおこさせない、そう強く決意しています。No War in Our Region! —— 私たちはこのことを強く願います。

日本は1945年8月に連合国(米英、中ソ)に降伏し、50年間つづけてきた戦争国家の歴史をすて、平和国家に生まれ変わりました。1946年に制定した新憲法には、国際紛争の解決に武力による威嚇、武力の行使をもちいることを永久に放棄するとの第9条が含まれました。日本は朝鮮の独立をみとめ、中国から奪った台湾、満州を返したのです。だから、日本は北朝鮮、韓国、中国、台湾と二度と戦わないと誓っています。日本に生きる市民は日本海(東海)における戦争に参加せず、台湾をめぐる戦争にも参加することはなく、戦わないのです。

私たちは、日本政府がG7の意をうけて、ウクライナ戦争の停戦交渉をよびかけ、中国、インドとともに停戦交渉の仲裁国となることを願っています。

2023年4月5日

この思いを声明にして、2023年5月19日から21日まで広島で開催されるG7広島サミットに出席する首脳たちに届けたいと思います。ぜひ、賛同署名をお願いします。またG7広島サミットに出席する首脳に向けて新聞広告も出したいと思っています。こちらのクラウドファンディングにもぜひご支援、ご協力、周りへご紹介ください。

伊勢崎賢治、市野川容孝、上野千鶴子、内田樹、内田雅敏、内海愛子、梅林宏道、岡本厚、金平茂紀、姜尚中、古関彰一、小森陽一、酒井啓子、桜井国俊、鈴木国夫、高橋さきの、高村薫、田中宏、田中優子、田原総一郎、千葉真、暉峻淑子、西谷修、羽場久美子、藤本和貴夫、星野英一、マエキタミヤコ、水島朝穂、毛里和子、吉岡忍、和田春樹

この声明に関する詳しい説明はHPをご覧ください。 <https://ceasefire-now.jimdofree.com/>

①停戦は現実的に可能なのですか？ ②具体的にどんなプロセスで停戦の交渉のテーブルを開くのですか？ ③なぜ撤退ではなく停戦なのですか？ ④随分前から停戦と言っている人はいましたが、なぜ「今こそ」なのですか？ ⑤停戦したとしてもすぐに破られてしまいませんか？ ⑥国連の停戦監視団はいつも失敗している気がしますが大丈夫ですか？ ⑦市民がG7首脳に呼びかけるなんて聞いてもらえなくて終わり、無視されるだけになりませんか？

報告 『はだしのゲン』や『第五福竜丸』をなぜ削除したのか 広島ノートから「反戦思想」を消し去りたい岸田政権

広島市教育委員会は、市立小中高校の児童・生徒を対象にした教材「ひろしま平和ノート」を4月5日に改訂した。小学校では、家族の絆を学習する分野での「はだしのゲン」を削除し、被爆者の生涯を娘が語る文書に差替えられた。中学校では第五福竜丸に関する記述が削除され、世界の核実験場の地図や核実験の写真に置き換えられた。高校では「はだしのゲン」の作者の中沢啓治さんの壮絶な被爆体験を語るインタビュー記事が削除され講演の記録は半分となった。悲慘さ、怒り、そして事実が隠される。

『はだしのゲン』に込められた反戦思想が不都合？

小3の「はだしのゲン」の教材では、「非国民扱いされ、仕事もない父親を助け、家族のために町で浪曲を歌い金を稼ぐところ、母親に精をつけさせようと鯉を盗むところ」、が使われている。それに対して「浪曲は児童になじみがなく、鯉を盗んでもいいという誤解を与える」と言いがかりのような意見。また「漫画では被爆の実相に迫りにくい」という読んだこともないような意見。「はだしのゲン」ほどリアルに描かれたものはないだろう。体中に割れガラスが刺さったままさまよう人、体中の皮膚が剥がれ指先からその皮膚が垂れ下がったまま歩く人など以前は残酷すぎると閲覧禁止になりそうになったぐらいである。

直接の削除の理由とは言わないが、「戦争する国」にしようとしている国にとっては、「はだしのゲン」が持つ反戦のメッセージが目障りなのではないか。母親のセリフ「いつも戦争を起こそうとする企てを早く見破って、みんなで声を張り上げ反対してふせぐのよ。国のためだと戦争して、かげで儲けるやつがいつもおるんじゃけえ」

原爆の残虐性と悲慘さを描いた『はだしのゲン』

原爆が投下された広島の惨状を描き、連載開始から50周年を迎える漫画「はだしのゲン」。広島市の学校だけでなく全国で平和教育の教材に使われている。

これに対して、2013年には泉佐野市長が学校図書室から撤去させ、松江市でも小中学校で閉架措置をとった。調査では全国で13自治体に撤去要求が提出されていた。その背後には雑誌「正論」や日本会議が存在していた。旧統一教会の名称問題に関与した下村文科大臣(当時)も同じ主張を公表している。



原水爆禁止運動の起点となった第五福竜丸

1954年に米国がビキニ環礁で行った水爆実験「ブラボー」は広島原爆の1000倍の爆発力で、広範な海と島々、大気を汚染した。安全なはずの海域で操業中であった「第五福竜丸」をはじめ1422隻の漁船が被ばくした。ロンゲラップ島などの住民も被爆し、死者も出た。第五福竜丸の船員は全員が被爆し、久保山さんが死亡した。水爆実験への抗議運動は全国に広がり、東京築地での「魚屋大会」、第五福竜丸の母港焼津などの自治体決議、各地で平和集会や市民大会が開催された。全国各地で署名運動が沸き起こり、その広がりの中で、8月8日には、各地の署名を集計し、「署名に表れた日本国民の総意を伝え、原水爆禁止の世界世論を確立する」ことを目的に原水爆禁止署名運動全国協議会がつけられた。

伝えられなかった広島を再現する 「広島への記憶」展(6月17日～8月27日)

「日清戦争」で大本営が設置され軍都広島に

広島には1894年の日清戦争で明治天皇が直接指揮する大本営が設置され、宇品港は大陸への兵員・物資の輸送基地となり施設が拡充された。広島を拠点とする第五師団は、中国侵略の先発隊として大陸での戦闘に加わった。広島では軍事施設の新設や拡充が行われ、造船や金属工業など軍需産業が活発になった。

米軍による原爆投下とGHQによる報道規制

1945年8月6日に米軍は人道上也、そして国際法にも反する原子爆弾を広島に投下した。政府と軍部は「国民の士気を保つため」、原子爆弾との報道を規制した。

敗戦後の一時期、日本と海外の報道機関は原爆の残虐性と被爆者の悲慘さを報道した。これに対して米軍GHQは9月21日に「総ての出版物に適用する」プレス・コードを発して全面的な報道統制を開始した。こうして「原爆報道」は封印された。この報道統制と自己規制が解けるのは1952年4月28日の日本の主権回復からである。

この厳しい統制の中でも、広島では峠三吉さんや四國五郎さんによる反戦反核の抗議の声を伝えるために「辻詩」等の運動が展開された。「(「わだつみのこえ」157号)

フェイスブックで、四國五郎さんのご子息の光さんが、広島で開かれる「広島への記憶」展を紹介された。

軍都で正しい情報が伏せられた戦前・戦中、および、GHQにより厳しい言論統制が敷かれた戦後。「伝えられなかった広島」の姿が絵画、写真、等で再現される。

「父・四國五郎の作品は、戦前・戦中の軍都廣島の姿を描いた21点の水彩画(複製)。特に古い広島をご存じの方には、とても懐かしい絵だと思います」と光さん。

その他、絵画は福井芳郎、写真は松本岩次、松重美人、木村伊兵衛、土門拳、また、資料としてジョン・ハーシー「HIROSHIMA」、LIFE誌、米国国立公文書館資料等が展示。(詳細は <https://izumi-museum.jp/1990/>)

日時：6月17日～8月27日

場所：泉美術館 (TEL 082-276-2600)

広島市西区商工センター2丁目3番1号 エクセル5階



政府安全保障能力強化支援(OSA)(朝日 4/6)

これまで日本政府の途上国援助(ODA)では軍事関連の支援は対象外であったが、今回、防衛装備品などを提供する新たな枠組み「政府安全保障能力強化支援(OSA)」を導入する。目的として「同志国の安保能力強化によって、日本にとって望ましい安保環境をつくる」。具体的にはフィリピンやマレーシアなどに「領海や領空などの監視レーダーや警備艇の提供を想定している。

家庭電力料金で火力発電新設を支援(朝日 4/6)

経産省は5日に発電所の新規建設を支援する「長期脱炭素電源オークション」を発表。再生可能エネルギー以外に原発や LNG 火力を含め、原則20年間の収入を保証。家庭などの利用者の負担とする。だが、LNG 火力は発電時に多くの CO2 を排出するので、条件付きとした。

ミャンマー国軍が民主派式典空爆(朝日 4/12)

ミャンマー国軍は、4月11日に、ミャンマー北西部のザガインの民主派の式典を空爆し、160人を越える市民を殺害した。アウンサンスーチー氏が率いる国民民主連盟は、「ミャンマーで大量虐殺を行うテロリストの国軍を効果的に阻止するように世界各国に要請する」と声明した。

原電敦賀2号機審査 申請書補正(朝日 4/22・4/6)

規制委は審査に原電が提出する資料に誤りが頻発していることから、審査の申請書の内容を修正して8月末までに出しなおすよう行政指導することを決めた。これに対して原電は11日に、行政指導に従う意向を明らかにした。これで昨年12月に2年ぶりに再開した審査は再び中断。

案内 4/28 原発いらナイト in 宝塚 121 回目の街

「原発いらナイト in 宝塚」も11年目に突入の121回目である。今回はついにドイツで原発の全面停止が実現したこと報告。そして福島事故の汚染水だけでなく、汚染水から取り出した汚染泥が満杯になりつつある危機を。

日時:4月28日(金) 17:00 (毎月の最終金曜日)

場所:阪急宝塚駅—JR 宝塚連絡橋

案内 4/29 昭和天皇の侵略戦争責任を問え! 集会

4月29日「昭和の日」に森正孝さんを迎えて上記集会在開かれる。集会では合わせて映画「語られなかった戦争-侵略-中国の大地は忘れない」(森正孝監督)も上映される。

日時:4月29日(土) 13:00
場所:PLP会館4階会議室
主催:参戦と天皇制に
反対する連続行動



案内 5/3 輝け憲法 平和といのちと人権を

■大軍拡・大増税 NO!生かそう9条! ■カジノよりの

ち・暮らし! 憲法活かす政治へ! ■ウクライナに平和を!

東アジアに平和を! ■

日時:5月3日(水) 14:00~

場所:扇町公園+市民パレード

メインスピーチ:猿田佐世

主催:大阪総がかり行動実



5/5 メインイベント

伊波 洋一 講演会

岸田軍拡・安保3文書で日本全国が戦場になるってホンマなん?



14時から(13時半開場)
6階大会議室にて
資料代500円(学生・障がい者無料)

【プロフィール】沖縄県宜野湾市出身。琉球大学理工学部卒。沖縄県議2期、宜野湾市長2期を経て、16年7月から参議院議員・会派「沖縄の風」。現在2期目。
座右の銘:基地のない平和な沖縄
著書:「普天間基地はあなたの隣にある。だから一緒になくしたい。」「対論・普天間基地はなくせる」「沖縄とヤマト」(かもがわ出版)等

5/4 プレイベント

川口 真由美 コンサート

すべての武器を楽器に

18時から(17時半開場) ※限定80人
プチ・エルにて(エルおおさか地階)
前売2500円(学生・障がい者1500円)
当日3000円(学生・障がい者2000円)
前売お申し込みサイト→
<https://qr.paps.jp/rHtHW>



京都のシンガーソングライターの川口真由美さんは、辺野古ゲート前の座り込みなどに参加しながら、歌で連帯を続けています。昨年12月には4枚目のCD『ESPINA』をリリースしました。



映画上映会 5階視聴覚室

※戦争展への協力金として1日500円いただきます

10:30~ はだしのゲン2

平田敏夫監督作品 1986年 86分
原爆投下から3年たった広島で、ゲンは家族と必死に生きていた。しかし原爆の放射能は母親の体を蝕んでいく。

13:00~ ナナイの涙

中井信介監督作品 2009年 100分
1991年にフィリピンから撤退したスービック海軍基地の跡地周辺には、米兵との間に生まれた子どもを持つナナイたちがいる。そして米兵に翻弄された女性や子どもの心には癒えることのない傷が残っていた。

15:00~ 南京!南京!

陸川(ルー・チューアン)監督作品 2009年 135分
中国が製作した南京大虐殺をテーマにした映画。レイプ・オブ・ナンキンといわれた事件の実相をリアルに描くばかりでなく、加害者である日本兵の心情にも迫ろうとする。

17:40~ シー・オブ・ミラクルズ

ダン・マロイ監督作品 2017年 17分
〈上関の自然を守る会〉の高島みどり、発電所建設に反対して35年間闘ってきた漁師や農家とともに、上関の海と自然環境の保護のために闘いつづけている。

アジアから問われる日本の戦争展 2023

今年で5回目の「アジアから問われる日本の戦争」展が、5月5日から開催される。今年も31団体が参加して全力で展示を行う。ぜひご友人もお誘いのうえご参加ください

日時:5月5日~6日 10時から19時
場所:エル・おおさか 7階、9階